

広島派遣研修で学んだこと

糸魚川中学校 2年5組 古田 壮志

僕は広島派遣研修の3日間を通してとても大切なことを学びました。

1 日目は被爆体験講話があり多賀俊介さんという被爆2世の方からお話をいただきました。多賀さんは実際には被爆にはあっておられず本当の恐怖はわからないと言っていました。ですが、被爆にあった人たちに話を聞いているうちにこのままで終わらせてはいけないと思い原爆投下当時のことなどをたくさん学び今でもたくさんの人達に講話しているそうです。実際に被爆した本人たちは高齢化が進み当時の様子を語れる人も減少傾向にあるということも聞きました。そこで多賀さんが最後におっしゃっていた言葉です。

「伝えていく、そして繰り返さない、繰り返させない」です。この言葉を聞き僕も伝えることの大切さを覚えました。

2 日目は平和記念式典に参列しました。そこにはたくさんの学生や外国人も参列していました。平和記念式典では広島市長をはじめとし岸田首相などの人達が平和について語り核の削減、平和への誓いを述べていました。最後の平和への誓いでは子供代表が「願うだけでは、平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り、平和を作っていくのは私たちです」と平和を固く誓っていました。

式典が終わり次に大和ミュージアムに行きました。そこには戦争当時に特攻部隊である人たちが家族に残した音声や手紙が残されていました。そこに残されていたものには「日本のために」と残されたものが多かったです。そこで僕は特攻とは無慈悲なものだと感じました。夜には、とうろう流しを行いました。と

うろうろ流しにもたくさんの人達が参加していました。そして川を流れるとうろ
うにはひとりひとりの平和への願いが書いてありましたその景色はとても神秘的
でした。

最終日には平和祈念資料館に行きました。資料館は、3 日間で行った平和記念
公園などの場所とは雰囲気、その場の空気感が違いました。平和記念資料館では
当時の様子を「地獄」とあらわした文や、様子を残した絵や写真がたくさんあり
ましたその中には原爆投下前の路面電車の通るにぎやかで鮮やかなとても綺麗
な街並みがありました。そして次には原爆投下後の写真がありました。「たった
1 発」その1 発でにぎやかだった街が一瞬にして吹き飛ばされました。建物は崩
壊し、草木は枯れ焼け野原のような状態でした。他にも被爆当時のままの時間で
止まった時計など当時の悲惨さを物語るものがたくさんありました。

最後に僕が感じたことは今ここにある平和、日々幸せに暮らせている「今」は
「当たり前ではない」と研修を通して感じました。
